

# フロアカーリング

フロアカーリングは、冬季オリンピック競技に採用されているカーリングを基に、いつでも手軽に楽しめるよう、93年に北海道の新得町で考案された室内競技です。

カーリングのストーンにあたるフロッカーにはキャスターが付いており、床面を滑らせターゲットに相手より近づけることで、得点を競うゲームです。

## 用具

- (1) ターゲット1個 (4輪、グリーン)
- (2) フロッカー8個又は6個 (3輪、レッド・イエロー) 重量2.3kg、直径24.0cm、厚み7.3cm
- (3) メジャー (3~5m)
- (4) スコアシート



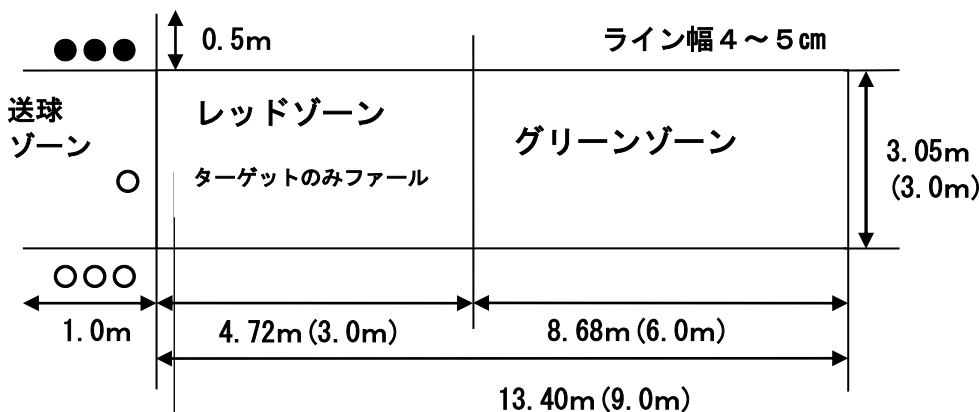
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
先攻									
後攻									

## 人数

- (1) シングルス (1対1) フロッカー6個又は8個
- (2) ダブルス (2対2) フロッカー6個又は8個
- (3) トリプル (3対3) フロッカー6個
- (4) フォース (4対4) フロッカー8個

## 場所・コートサイズ

- (1) 平坦な床面か、平坦で固いところ
- (2) フロッカー8個使用時：幅4.05m×14.40m
- (3) フロッカー6個使用時：幅4m×10m
- (4) ライン幅4~5cm  
(コート設営に余裕がない場合は、コートを縮小し行う。)



バドミントンコート半分の広さを使用。

※ ゲーム前にターゲット及びフロッカーを配置し、ゲームを開始する際はプレイヤーの妨げにならない場所に移動する。

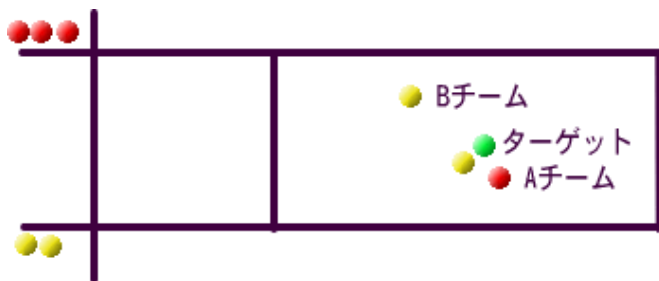
ゲーム開始時はレッドフロッカーをコートに向かって左側に置きます。2セット目は右、3セット目は左と交互に移動します。(選手の移動はありません)

## 送球方法

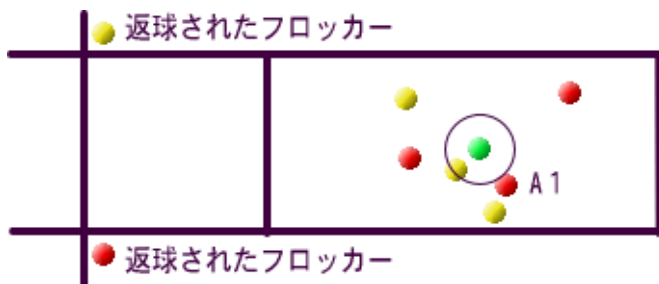
- (1) 片膝か両膝を床面についた姿勢から、ターゲットもしくはフロッカー (グリップを握り) を軽くスイングさせたのち目標に向け押し出します。その際、プレイヤーはフロッカーが手から離れるまでの間、ラインに触れたり、踏み越えられません。送球ゾーンのサイドラインについては触れたり、踏み越えてもOK。しかし、フロッカーは必ず送球ゾーン内のサイドラインに触れないように送球しなければなりません。  
スイングとは、ローラーを進行方向に揃えるため本体を前後に移動し、送球時の曲り防止をする行為。
- (2) フロッカーのハンドルを左右どちらかにひねって送球すると、その方向に遠心力がはたらきカーブします。右に曲がるのをインターン、左に曲がるのをアウトターンといい、作戦によって使い分けます。
- (3) 自チーム内の送球順は自由で、キャプテンはターゲット近くに立ち、プレイヤーに目標を指示することができます。

## 競技の進め方

- (1) 両チームのキャプテンは、ジャンケンで先攻を決め、(以後先攻権は移動する)勝ったチームの1人がグリーンゾーンに向け、送球ゾーン内よりターゲットを送球する。(送球とは、ターゲットやフロッカーが手から離れ、停止するまでを言う。その間、身体がラインに触れたり、ライン外に出てはいけない。)
- (2) グリーンゾーンにターゲットが停止しない場合(無効)は、もう一度やり直す。2回とも停止しなかった場合は、相手チームに権利が移るが、フロッカーの送球は最初に先攻権のあるチームから行う。
- (3) 先攻チームはレッドのフロッカーを、後攻チームはイエローのフロッカーを使用する。(セット毎にフロッカーは交換する)
- (4) ターゲットがグリーンゾーン内に停止した後に、先攻チームの1人がターゲットに向けフロッカーの送球を始める。
- (5) 次に後攻チームの1人が先攻チームのフロッカーよりターゲットに近く停止するようにフロッカーを送球します。この際後攻チームが送球したフロッカーが先攻チームのフロッカーに当たり共にコート外に出た場合は次の送球は後攻チームがします。(セット途中でターゲットを残し、A又はBチームが送球したフロッカーにより、コート内のA、B両チームの全てのフロッカーがはじき出された場合は、送球したチームが次の送球を行う。)
- (6) その結果、ターゲットに近いチームが優勢、遠いチームが劣勢となり、送球はターゲットにより遠いチームから行います。(逆転するまで送球する)  
※同距離では逆転していないので、続けて送球することになります。
- (7) Bチームが2個目のフロッカーを送球した結果、ターゲットに近かったAチームよりターゲットに近付けた場合、送球はAチームに移りターゲットに相手より近づくまで送球を行います。



- (8) ターゲットからより遠いAチームが、全ての送球を終えたが逆転できなかった場合Bチームが残りのフロッカーを送球し、そのセットは終了します。(もし、アウトになったフロッカーがあれば、審判は間違っても使われないようにそのフロッカーを相手チーム側に返球します。)  
※ライン上での停止は全て有効。また、送球中一度コート外に出たフロッカーが、再びコート内に戻って停止した場合も有効。
- (9) ターゲットを中心に一番近い相手チームのフロッカー(A1)の内側にあるBチームのフロッカーの数が得点になります。この場合はBチームが1点獲得し、次のセットに入ります。



## 勝敗と得点

- (1) 9点先取したチームが勝ちとなり、ゲームは終了する。その他規定セット方式(3セットや4セットマッチなど)での得点により勝敗を決定する方法もあります。
- (2) 得点はターゲットを中心に、最も近い相手チームより内側にある自チーム全てのフロッカーの個数がそのまま得点となり、1個1点と計算。ターゲット、フロッカーがオンラインのときはコート内とみなします。

## その他の判定

- (1) レッドゾーン内にあるフロッカーは有効。双方のフロッカーがターゲットに対して同距離の場合は、後に近付けたチームが次に送球する。
- (2) 送球したフロッカーがターゲットを弾き出した場合、そのフレームは終了し、ターゲットを弾き出したチームは、相手チームに2点又は未送球のフロッカー数のいずれが多い方を得点として与える。送球されたフロッカーが別のフロッカーを弾き、そのフロッカーによってさらにターゲットがコート外に弾き出された場合も同様となる。また、送球したフロッカーによって他のフロッカーがコート外に出された場合は、コート外に出されたフロッカーは無効となる。